

札幌市立本通小学校

〒003-0028

白石区平和通9丁目南1番1号

【愛隣館第二保育園、

アスク白石保育園との連携】

・愛隣館第二保育園は、平和通を挟んで本校とは近い場所に位置しており、本校の開校から3年後に愛隣館第二保育園が開園され、卒園児の多くが本校へ入学してくる。平成29年度も18名の卒園児が本校に入学予定である。

・アスク白石保育園は、平成27年度4月に12号線沿いに新しく開園され、その年から交流が始まった。今年度は卒園児4名が本校に入学予定である。

・今年度は、学習発表会児童公開日1日目をアスク白石保育園の年長児が参観した。1・3・4年と特別支援学級の劇を観て、予定よりも長い時間を楽しんでいた。

・12月の児童集会「ハッピーショップ」では、愛隣館第二保育園の年長児を招待した。これは、リサイクル活動のねらいもあり、リングプルを“お金”代わりにして、2年生以上の子どもたちが考えた手作りゲーム等のお店を楽しむ集会である。園児たちもリングプルを持参し、たかさんのクラスを回り、楽しんでもらうことができた。また、本校児童も園児と交流をすることができていた。

【成果】

- ・保育園の先生方と会って話をする機会が増えたことで、子どもの様子や地域の様子についての情報交換ができた。
- ・子どもたちには、園児との交流を通して、自分の活動に自信をもったり、小さい子に優しく接したりする気持ちを育てることができた。

【考察】

- ・保育園の子どもたちとの交流を継続する中で、小さい子に優しく関わろうとする気持ちが育ち、自分の成長を感じ取ることができる。また、園児も入学前に小学校に何度か足を運ぶ中で、入学への期待感を高めることができているようだ。



【児童公開日に学習発表会を観る園児 11/9】



【ハッピーショップ

もぐらたたきで遊ぶ園児 12/15】

《1学期》

【出身の保育園、幼稚園との連携】

7月…近隣の6つの幼稚園・保育園の先生が来校し、学校生活に慣れてきた1年生の様子を参観した。参観後に1年生の担任と子どもの様子についての交流会をもった。

《2学期》

【近隣の保育園との連携】

- 1月…近隣の3つの保育園の年長児が1年生の学習発表会の最終練習を観覧した。
- 2月…本校入学児が一番多い保育園に出席。年長児の保護者に1年生の一年間の様子や入学前の心の準備等について説明した。



【1年生の様子について交流する先生】

《3学期》

【近隣の保育園との連携】

1月～2月…4つの保育園児と児童が交流する。

『プレ東っ子となかよくなるう！大作戦』～5年生と年長児との交流～

(総合的な学習の時間で実施)

【ねらい】

- 5年生 → 4月からは最高学年になり、1年生との交流をする子どもたち…1年生になる年長園児との交流を事前にもつことで、少しでも仲良くなり、自信をもって自分から関わることができるようになる。
- 年長園児 → 顔見知りのお兄さん・お姉さんができ、小学校への不安が小さくなり、入学を楽しみに感じることができる。

<1回目の交流>

5年生児童が4つの保育園に分かれて訪問し、年長児との交流を図る。

※交流内容については、それぞれの保育園が企画する。

<2回目の交流>

4つの保育園の年長児が本校に来て、5年生児童と交流を深める。

※交流内容については、5年生が企画する。



【ゲームで交流を深める5年生と年長児】

【入学園児のいる保育園・幼稚園との連携】

3月…入学予定の園児のいる近隣の保育園・幼稚園の先生が来校し、入学にあたる園児の様子について交流する。

【成果】

- ・教職員の情報交換の場をもつことにより、相互理解と子ども理解が深まった。また、参観日や公開日、運動会等へ見学など、お互いの行き来が増えてきた。
- ・年長児が小学校に対して抱いていた不安を少しでも小さくすることができ、入学への期待感をもてるようになった。
- ・新年度、6年生が1年生を迎える気持ちが高まり、入学してからの交流の深まりにつなげることができた。

【考察】

- ・年間行事を見通しながら、より効果的な連携を計画・推進していく。

札幌市立北郷小学校

〒003-0834

白石区北郷4条5丁目1-1

【北郷小と北郷札幌幼稚園の連携】

- 北郷小の5年全児童と、北郷札幌幼稚園の年長さんとの交流を年2回実施している。
- 今年度も、北郷札幌幼稚園と北郷小学校体育館で、それぞれ1回ずつ実施した。
- 5年生が総合的な学習の時間で立てた計画をもとに、一緒にゲームやなわとび活動などに取り組み、互いに交流を深めた。
- 来年度6年生となった本校児童が、入学してくる新1年生を学校の生活に慣れるようサポートする取組へと継続される。
- 北郷札幌幼稚園は、校区内に所在する幼稚園で、本校との交流も継続的に行っている。



【北郷小での集会の様子】

【成果】

- 連携することで、相手の気持ちを考えて関わろうとする態度が培われた。
- 連携を通して、地域にある施設について興味や関心をもてるようになった。
- 連携することで、人間関係について高まりを感じるできるようになった。
- 4年生で子育てサロンに来ている子どもとの関わり、5年生で幼稚園の園児との関わりを学習したことで、来年度6年生になった時、入学してきた1年生との関わり方にも工夫がみられるだろう。来年度の1年生との関わりに対して、目的意識をもって取り組んでくれることを期待している。

【考察】

- 異学年との交流に3年間継続して取り組むことで、子どもたちの意識や意欲が向上している。
- 今後は、今までの経験を生かして、創意工夫しながら、さらにより良い関わり方ができるように取り組むよう指導していく。

札幌市立西白石小学校

〒003-0013

白石区中央3条5丁目2番22号

【白石興正保育園との連携の歴史】

昭和47年に開校した本校は、白石興正保育園と敷地を接している。保育園は、本校より1年早く開園し、平成12年より連携がスタートし、14年が経った。



ハロウィンに招待されました



小学校で楽しくゲームをしました



小学校で雪中運動会



やきいもパーティは2年に一度

【経過】

- ・西白石小学校2年生と白石興正保育園の年長さんが、お互いの学校（園）を訪問し合い、お店屋さんごっこやゲームなどをして、お互いが仲良くなる活動をしている。
- （5月）白石興正保育園園児が顔合わせのため来校し、活動のスタートを切る。
- （5月）白石興正保育園園児が運動会の総練習を見学に来校する。
- （6月）小学校のすもう大会に応援にくる。
- （8月）保育園の運動会の練習を見学に行く。
- （10月）白石興正保育園に行き、ハロウィンパーティに参加する。
- （11月）白石興正保育園園児が学習発表会の児童公開を見学に来校する。
- （12月）白石興正保育園園児が来校して体育館でお店屋さんごっこで交流する。
- （1月）小学校で雪中運動会をした後、保育園で豚汁をごちそうになる。
- （2月）白石興正保育園園児が来校して、小学校を探検して入学に備える。

【成果】

- ・白石興正保育園の園児で、本校に入学する子どもは例年7～8人程度で、決して多くはないが、保育園との交流で得ることは多い。
- ・交流のスタートは、保育園の行っているたてわり活動を研修したいと小学校からお願いしたことであった。先生方の交流からのスタートではあったが、その後、子どもの交流に発展し、お互いの情報を交換しあっている。

【考察】

- ・2年生と年長さんだけの交流ではあるが、無理なく長い期間続いている。お互いの情報も定期的に伝えるようにしているので、十分な連携がとれていると言える。

札幌市立北都小学校

〒003-0833

白石区北郷3条11丁目7番1号

【「認定こども園 北都」との連携】

- ・5年生の総合的な学習の時間の中で、「認定こども園 北都」との交流活動を行っている。
- ・今年度は、1月に本校5年生が認定こども園に行って園児との交流を図った。児童が遊びの計画を立て、園児との遊びを通して仲良くなり、楽しそうに活動する姿が見られた。今後3月に、認定こども園の園児に本校に来てもらい、5年児童が学校案内と交流活動を行う予定である。
- ・本校の総合的な学習の時間の中に位置付く取組で、これまで継続して取り組んできたことである。
- ・全員ではないが次年度、多数の「認定こども園 北都」の園児が本校に入学する。



【5年生が司会のはじまりの会】



【グループでの交流の様子①】

【成果】

- ・小さい子の立場になって、自分たちのアイデアを生かしながら楽しい活動をつくりあげることができた。
- ・次年度、最高学年として新1年生のお世話をする自覚がもてた。
- ・毎年継続して行っている活動なので、児童・園児とも楽しみにしている。



【グループでの交流の様子②】

【考察】

- ・「認定こども園 北都」とは、これまでも連携してきたが、児童がしっかりねらいをもって活動していけるように、今後も綿密に連絡を取り合いながら取組を進めていく。

札幌市立平和通小学校

〒003-0027

白石区本通15丁目北3-1

【保育園との連携】

本校では、校区内や近隣にある保育園との交流を2年生の生活科カリキュラムに位置付け、年2回実施している。

1回目は「まちたんけん」の訪問先として地域にある商店などの他に「白石うさこ保育園」と「柏葉保育園」を設定し、学級ごとに訪問している。訪問する前には「園児たちが喜ぶ出し物をしよう」をめあてに出し物ごとのグループで内容や役割分担を決め、練習に取り組んでいる。当日は、お互いに緊張しながらもだんだん打ちとけていき、出し物ごとに大きな拍手をもらい満足そうだった。

2回目は「2年生まつり」として、1年生と訪問した先の保育園児を招待し、「ゲーム屋さん」を開く活動である。「小さな子が楽しめるゲーム屋さん」を目指して、出店ごとに用具やルール、説明の仕方などを工夫していった。当日は、お互いに2度目の交流となるので、和気あいあいと楽しそうに活動していた。

【成果】

- ・2年生なりに年長者としての自覚が芽生えてくるので、年下の子へ丁寧に対応しようと努めていく態度が見られた。
- ・「保育園児のために〇〇しよう」という視点で活動を考えたり工夫したりするようになった。
- ・「喜んでくれた」ことを実感することで、準備から当日までの活動を満足感をもって振り返ることができた。
- ・保育園から事前に情報を受けた園児の活動の様子を確かめることができた。

【考察】

- ・2つの保育園との連携は、児童・園児の交流が中心であるが、卒園した園児の成長の様子や入学予定の園児についてお互いに確かめることができる機会でもあるので、今後も継続していきたいと考える。



【保育園を訪問している様子】



【こうやってゲームをするんだよ】



【昔遊びを教えているところ】



【2年生まつりの様子】

札幌市立南白石小学校

〒003-0022

白石区南郷通2丁目南6-35

【南郷保育園との連携～連携の経緯～】

平成27年度に行われた白石区幼保小連携推進協議会の場で、南郷保育園が平成20年度に本校校区内に移転してきたことを改めて確認し、その後の連携体制をつくっていききたいと相談したことがきっかけとなった。

【南郷保育園との連携① 学校見学】

平成27年度から、校区内唯一の南郷保育園との連携を試みている。冬に小学校見学を予定したが、悪天候のため実施できなかった。

平成28年度は、もっと早い時期に行おうと、7月に小学校見学を実施した。保育士の引率で学校内を探検したが、保育園とは違った雰囲気や、小学生のお兄さんお姉さんの姿を見ることで、小学校を身近に感じてもらえたのではないかと思う。



【職員室の様子を見学している園児たち】



【園児たちが鑑賞した6年生の発表】

【南郷保育園との連携② 学習発表会見学】

7月の学校見学に続いて実施したのが、12月に行った学習発表会の見学である。

2日間に分けて行った児童公開日の2日目に見学を実施した。

登園時間や準備の関係から、最後のプログラムである6年生の発表だけを見学した。1学年だけであったが、約50分間と比較的長い時間をじっと座って鑑賞してもらえた。迫力のある6年生の発表に引き込まれていたようだった。

【成果】

- ・それまで実施できなかった南郷保育園との連携の取組を、実施することができたということが大きな成果である。園児が来校するために必要な時間や、活動するために必要な補助体制などを確かめることができたので、この取組を足がかりとして連携の活動を広げていきたい。

【考察】

- ・学校の施設や様子を見学するだけでなく、児童と園児のふれ合える場を設定していきたい。
(生活科の学習との関連で、園児と一緒に遊ぶ場など)
- ・そのために、学校の教育課程も見直し、計画的・継続的に取り組めるようにする必要がある。
(学校行事の時期、園児たちが活動しやすい時期や時間帯の調整など)
- ・昨年11月に、白石区複合庁舎移転にともなって「ちあふる・しろいし」が校区内に移転してきた。早速、連携の方向で調整しているが、南郷保育園との連携と併せて行っていけるように連絡調整を進めている。

札幌市立菊水小学校

〒003-0822

白石区菊水元町2条3丁目2番14号

【近隣の幼稚園、保育園との連携】

本校における近隣の幼稚園や保育園との交流は、「学習発表会」の参観や授業の参観のほか、「生活科」での「まち探検」や5年生との「給食交流」などに取り組んでいる。

○ 1年生との交流

① 「学習発表会」の参観

児童公開日の発表や1年生の直前練習を観覧してもらっている。

来校した園児に楽しんでもらうことはもちろん、園児からもらう拍手が、本校児童にとって自分たちの取組の良い評価となり、自信や自己肯定感につながっていた。



② 「授業」の参観

2月には、新1年生の「一日体験入学」のほかにも、園児が来校して、現1年生の授業を参観している。

新1年生には、学校の様子を知るとても良い機会となり、現1年生にとっても、進級に向けての良いステップになっている。

○ 2年生との交流

生活科の「まち探検」では、保育園や幼稚園の見学に出かけている。

教科のねらいを達成することのほかにも、卒園した園児に行き、2年生になった姿を見てもらうことは、本校児童にとって、とても良い機会になっている。



○ 5年生との給食交流

新年度には、「6年生」と「1年生」として、交流を行うことになる「5年生」と「年長児」の組み合わせで、給食交流を設けている。緊張している園児たちに、学校生活の楽しさを伝え、入学に対する不安感を払拭することも、5年生の大切な役割となっている。



(成果)

- ・ 小学校の活動を知ってもらったり、上級生と交流したりすることで、小学校生活への不安を払拭することができる。
- ・ 進学前から園児の様子を知ることができるので引き継ぎがしやすく、園児も小学校の生活にスムーズにつなげていくことができる。

(考察)

- ・ 担当者間だけではなく、活動の成果や課題について、「幼稚園・保育園」と「小学校」の職員同士で交流する場を設定できると、さらによい活動になっていくと考える。

札幌市立東川下小学校

〒003-0864

白石区川下4条3丁目1-1

【東川下ポップ保育園との連携】

「東川下遊びランド」での交流

3年生の総合的な学習の時間の学習「東川下遊びランド」の学習では、じゃんけん列車やフルーツバスケット、間違いさがしなどの遊びを3年生が計画し、保育園の年長クラスの園児を招いて活動する。

学習発表会の参観

本校で学習発表会児童公開日に年中クラスと年長クラスの園児が劇や音楽の発表を参観する。今年度は、1年生劇「けんかした山」、2年生劇「アイウエオリババ」、5年生音楽「挑戦～もっている力をだしきる～」の発表を参観した。

保育参観

本校教職員が保育園を訪ねて保育の実際を参観する。年長クラスを中心に見学し、園児の発達段階を把握する。

【連携に至る経緯】

本校に入学する卒園児が多い。園児が本校児童との交流や行事の参観を通して、小学校の生活の実際を捉えることを目的に実施している。また、入学前の幼児の発達段階をとらえ、スムーズな学びの接続を目的に本校教職員が保育参観している。

【連携先との関係】 卒園後、本校に入学する園児が多数いる。

【北都幼稚園との連携】

「東川下遊びランド」の交流

3年生の総合的な学習の時間の学習「東川下遊びランド」の学習では、幼稚園を訪問し、自分たちが計画した遊びを、年長クラスの園児を対象に実施する。

【連携に至る経緯】

子どもたちが園児と触合うことを通して、思いやりの気持ちを育むことを目的に実施している。

【連携先との関係】 卒園後、本校に入学する園児がいる。

【成果】

- ・園児との交流を通して、人と関わる楽しさを味わい、思いやりをもちながら接することの大切さを実感することで、本校児童にとって豊かな心を培う機会となった。
- ・小学校入学前の園児の発達段階が把握できるなど、教職員による入学前の子ども理解が深まった。

【考察】

- ・交流を通して、園児の遊びや学びの実際や発達段階をとらえることができた。園児のもつ学びと育ちを踏まえ、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくことができる「スタートカリキュラム」を再考していく。



【東川下遊びランド】



【学習発表会の参観】



【保育参観】



【東川下遊びランド】